

地域 担い手 サボ・センだより

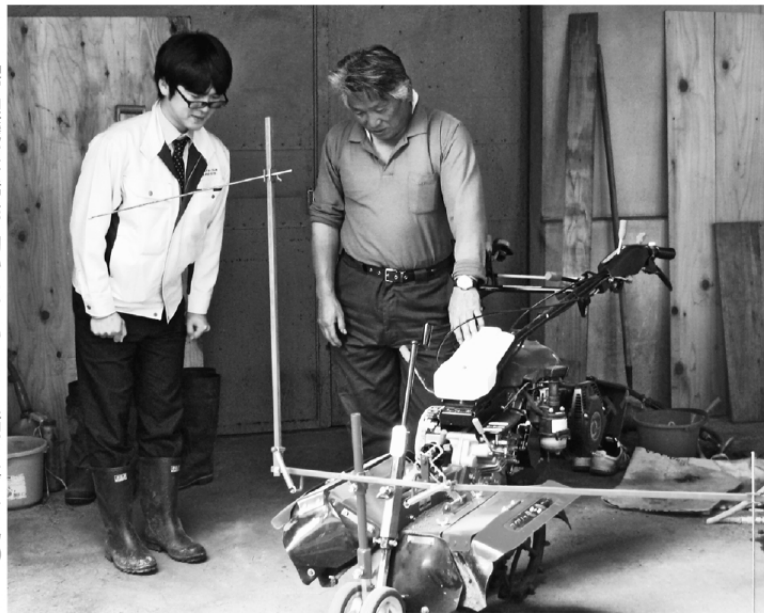
J Aグループ山形

園芸振興に力を入れるJ A新庄もがみは、J A山形中央会の生涯現役支援プロジェクト事業を活用し、60歳以上の高齢者の園芸用小型機械購入を支援している。地域ぐるみの園芸産地づくりに、定年帰農者らを含めた高齢者にも活躍してもらおうとの狙いだ。生涯現役の生きがいづくりと作業負担軽減を後押しする。支援事業は2010年度から始まった。園芸用機械の導入を支援する県の戦略的園芸産地拡大事業に上乘せる形で、J Aが10万円を上限に購入費の3分の1を助成。J A山形中央会は

園芸振興に高齢者の力 J A新庄もがみ

その半額を支援する。J Aでは、米主体から園芸や畜産を組み合わせた複合経営にシフトさせていく「アグリシフト442」運動（販売高1米4割、園芸4割、畜産2割）を展開しており、園芸産地づくりは県やJ Aグループ山形の戦略にもマッチする。J A北部営農センター管内のニラ、アスパラガス、ネギ、促成山菜、花きの各部会は16年度、県事業を活用して園芸用機械・装置を導入した。これと併せ、9人の高齢者が生涯現役支援プロジェクト事業を活用し、ネギの畝立てに使う管理機や草刈り機、自走式堆肥散布機、運搬車などの小型機械を購入した。75歳を最高に70歳以上が3人おり、小型機械の購入支援は、営農による生きがいづくりと作業効率アップに役立っている。55歳で退職し、水稻の他、転作ネギやアスパラガス、タラの芽の促成栽培などを営む星川政徳さん（67）は管理機を購入した。星川さんは「溝掘りなどの作業が効率よくできる。ありがたい」と話し「これからの農業は、園芸にシフトしなければ安定した所得

確保は難しい。特にアスパラガスは単価も安定し、収益率の良い作物だ」と意欲を見せる。



「管理機は重宝で助かっている」と話す星川さん（右）

小型農機の購入支援